

ることも比較的容易かも知れないが、併し幼児教育と云ふものはそんな、容易なことではない。何の教育でも然うであるが、特に幼児教育は、前述べた處の特色を以て居るものであるから、甚だ六かしいことになる。いはゞ幼児教育者は、教育上の細かい技巧でなくして、此の教育の根本的理解と資格とからでなくては出来ないものである。

## 幼稚園と自然

自然を顧慮せられぬ幼稚園は到底失敗に終ることを免れませぬ。幼児の精神生活は自然であります。其自然の精神生活が外界の天然にまた深い關係を持つて居るのです。

林の中に小鳥が自由自在に樂しげに囀つて居る如く、幼児の精神生活は自由でそして自然であり

以上、別に新らしいことでもなく、誠に平凡なことであるが、私としては多少考へて居る點もあつて申し上げました次第である。此の簡單なお話も、諸君のお考へによつて、少しでも意味あるものにお聞きなし下さつたならば、此上もない幸である。

ドクトル 三・田 谷 啓

ます。不自然は幼児の精神生活を破るのです。幼児は砂を以て樂しく遊びます。花を持つて嬉ばしげに遊びます。これが幼児の自然である。そして大切な仕事なのであります。遊戯は無意味に戯れるのでなく、幼児の爲めには大切な仕事なのであります。

幼稚園教育の一大要點は幼兒を「自然」に一致して指導すると云ふことであります。この調和がよく保たれて初めて幼稚園教育の目的が達せられるのです。今二三の例を申せば此關係がよくわかります。

幼兒の身體の發育も精神生活も悉く自然の原則に従つて居るのである。自然の法則を破つて出ることとは出来ませぬ。お伽噺を好むのも自然である鳥や獸を好むのも自然である。この自然を顧みずして非自然を以て取扱ふときはそこに衝突が生じて來る。この衝突が幼兒の精神生活を破るのである。

單に幼兒のみならず。成人も同じことである。自然に適合した生活は何より良い養生の法であります。不自然なことをするから病氣に罹り易くなるのであります。

幼稚園の可否に就て何や歟やと論ずる人がある。これは幼稚園其ものゝ可否にあらずして導く人の

如何によつて分かれて來る問題である、幼兒の精神生活に一致した保育であれば幼稚園存廢論などは出て來る筈はないと思はれます。

幼兒が天然を好むのは自然である。これをよく利用すればそこに調和が出来、教育の効果が現れるのであります。この意味に於て天然を幼稚園教育に用ふことは大切であります。

幼稚園教育に於てどれ丈け天然を利用し得るかと云へば、園外に於ける散歩等を別にして凡そ次の如きことを行ひ得るのであります。

#### 一、お庭の遊び。

これには植物を世話させることも出來ます。耕したり又肥料を施すことは成人が行つて幼兒には種をまかせ、水を注ぎ、草をとる位のことを行はせるのです。幼兒の數の多いところでは花園を區分して幼兒の所有地を定めることも出來ます。

砂場を造つて遊ばせるやうにすることも必要である。砂場の上には別に屋根を造り或は影多き樹



す。これが感化教育上の一大要點です。幼少の間に花を愛し樹を護ると云ふ美はしい習慣を造り、また鳥や獸を愛してまるで我が友の如く取扱ふ中に、自ら美はしい同情の念を生ずるは幼兒の精神生活に大きな價值がある。天然を愛するのは高尚な精神生活の發達する始めであります。

幼少の時に此美はしい天然を愛する心を養つて置けば、後に迫んで動物を虐待するやうなことは避けられると思ひます。西洋の人々はよく動物を

愛します。例へば犬や馬などを愛する程度は大したものです。これも矢張幼少の間から常に犬や、馬を友の如く愛して居つたためだらうと思ひます。自然を尊び天然を愛する心を幼兒の胸に深くつぎ込んで置けば、これが智情意の方面に種々の形に於てよき實を結んで實際生活に利益を與へるのです。この邊の消息は幼兒哺育に従へる人の領解を要するところだと思ふのであります。

## 幼稚園に於ける數の取扱につきて

神戸幼稚園長 望 月 くに

### 一 數の名稱と數の觀念

(1) 數の名稱とは、數の系列即一二三四五六と數の順序通りに讀み行くことにして、大人ならば同

時に數觀念の伴ふものなれども、幼兒に於ては無論數觀念の構成せられたるにも、理解せられたるにも非らずして、唯一定の順序に配列せられたる數の名稱即言語を學習したるに過ぎずして、數の